

第2回超電導応用研究会シンポジウムのご案内

巨大超伝導加速器が続々と稼働を開始するこの時期に「加速器における超伝導応用」をテーマとしてシンポジウムを企画しました。加速器での超伝導応用は増加してきていますが、理化学研究所でも超伝導技術を本格的に利用した加速器施設であるRIビームファクトリー(RIBF)を建設してきました。本施設はほぼ完成し、昨年秋から行ってきた冷却励磁試験を無事成功させ、この秋から本格的な運転に入る計画となっています。超伝導リングサイクロトロン(SRC)及び超伝導RIビームセパレーター(BigRIPS)と言う世界でも類を見ない2つの大型加速器用超伝導機器が導入されています。今回は本格的な運転に入る前のわずかなチャンスを生かして世界最高の性能を誇る本施設を至近から見学したいと考えています。本施設は運転が一度始めると一般の方の見学はかなり困難になることが予想されます。この機会に是非見学することをお勧めいたします。また講演では本施設の紹介を行うと共に、他の大型加速器施設における超伝導応用の実情について紹介していきたいと考えていますので、奮ってご参加ください。

テーマ：大型加速器における超伝導応用の実情

日時：2006年10月5日(木) 13:00-17:00

場所：理化学研究所 和光研究所

参加費：2000円

プログラム

見学会 13:00～14:30 集合場所 仁科ホール

講演 (1)14:30～14:35 開会の辞

(2)14:35～15:00 RIビームファクトリーの概要-----矢野安重 (理研)

(3)15:00～15:25 超伝導リングサイクロトロン (SRC) の概要と現状-----奥野広樹 (理研)

休憩(15:25～15:40)

(4)15:40～16:05 RIビーム発生装置 (Big-RIPS) の概要と現状-----日下健祐 (理研)

(5)16:05～16:30 LHCの現状と将来；日本の貢献-----山本明 (KEK)

(6)16:30～16:55 J-Parkニュートリノ超伝導システムの概要と現状-----荻津透 (KEK)

(7)16:55～17:20 総合討論

(8)17:20～17:25 閉会の辞

オーガナイザー：前田秀明 (理研)、土屋清澄 (KEK)、田崎賢司 (東芝)

問合せ先：東芝 電力産業システム技術開発センター 田崎賢司

〒230-0045 横浜市鶴見区末広町2-4 TEL045-510-6695 FAX045-500-1427

E-mail : kenji2.tasaki@toshiba.co.jp

参加申込：当日の参加も可能ですが、講演資料等の用意の都合がありますので参加予定の方はE:mailまたはFaxにて問合せ先まで連絡をお願い致します。

交通案内：[電車]池袋駅→和光市駅 [東武東上線・急行 (約12分) または東京メトロ有楽町線 (約19分)、なお、和光市駅から現地までの道のりは下記URLをご参照ください

<http://www.riken.jp/r-world/riken/campus/wako/access.html>

[車]首都高速5号線高島平ランプ下車 → 三園2丁目交差点を左折 笹目通り直進 → 和光陸橋下交差点を右折 国道254号線 (川越街道) 沿い左側